

追悼 特別企画

# 故郷を愛した書家

## 柿下木冠氏 作品展示会



撮影：白井裕介さん

2023年10月に川根本町出身の書道家、柿下木冠（本名 柿下康次）さんがお亡くなりになりました。

柿下さんは1940年（昭和15年）に文沢で生まれ、書道家として多岐にわたり活躍されました。柿下さんはこれまで、町内の小中学校や役場庁舎などに貴重な作品の一部をご寄贈いただいています。その中から4点の作品が11月21日（火）から12月10日（日）まで、川根本町文化会館に展示されました。今回は、ご家族に伺った柿下木冠さんについて紹介します。

### 「書」と出会ったきっかけは

元々字を書くことが好きで、高等学校へ入学後、書道部に入部しました。きっかけは、そのときの顧問の先生が「お前の字は特別だ」と褒めてくれたことでした。高等学校の書は、習字とは違い芸術としての「書」ですから、そのように自分のいいところを見つけ、褒めてくれたことに、自信を持つことができました。

### 作品にはどのような景色を

地元や自然をとっても愛してい

それから、顧問の先生を通して、書道家の山崎大抱先生を紹介していただき、19歳の頃に師事することになりました。山崎先生と出会い、自分の書を批評して貰うことでさらに磨きをかけ、その後は山崎先生の尊敬される手島右卿先生にも師事することになりました。お二人の指導を受ける中で、苦勞も多くありましたが、書にはさらに磨きがかかりました。山崎先生には約30年間、手島先生には約25年間ご指導いただきました。



▲文沢区で愛犬の散歩をする生前の柿下さん

る方でした。年末には毎年必ず帰省し、愛犬と散歩に出かけることが好きで、一度外出すると時を忘れ何時間も戻らないので家に帰る頃には犬のほうに疲れていました。そのため、作品の基本には、日常の自然「四季折々」の景色が取り入れられているものが多くありました。作品は日常的に自宅でも書いていて、常に書のことを考えながら生活しているようでした。

昭和60年頃には「一基会」という書道研究会を立ち上げ、お弟子さんとともに数々の書展に作品を出展しました。一基会という名称には、「物のはじめ」や「物の極」などを大切にこれを基として書人としての生涯を全うする」という願いが込められています。平成8年には、米國「ニューヨークカーストアイアンギャラリー」にて「柿下木冠ニューヨーク個展とグループ展」を開催するなど、数々の功績を残されました。

柿下さんの残した作品は、今日も故郷への思いを静かに伝えています。

### 柿下木冠さん略年譜

- 1940年 文沢に生まれる
- 1959年 やまさきたいほう 山崎大抱氏に師事
- 1961年 てしまゆうけい 手島右卿氏に師事
- 1978年 静岡県文化奨励賞受賞
- 1984年 第3回富嶽学問文化賞展大賞受賞
- 1999年 第47回独立書展会員特別賞受賞
- 2014年 第27回毎日書道顕彰芸術部門受賞



柿下さんのご家族



▲展示された4作品

- ①出山（しゅつざん）
- ②土牛（どぎゅう）
- ③地（ち）
- ④梅（うめ）